

様式第5号

出張調査報告書

平成29年11月30日

松伏町議会議長 佐藤永子様

会派名 自民クラブ

代表者氏名 高橋昭男



下記のとおり先進地視察をしたので届け出ます。

記

1 期 日	平成29年11月 9日から平成29年11月10日
2 視 察 地	(1) 新潟県湯沢町 11月 9日(木) 14時~17時 (2) 群馬県川場村 11月10日(金) 10時30分 ~14時30分
3 視 察 目 的	(1) 1. 保・小・中一貫教育、湯沢学園の概要 2. 道の駅「みつまた」の概要 (新潟県湯沢町) (2) 道の駅「川場田園プラザ」の概要 (群馬県川場村)
4 視 察 者 氏 名	高橋昭男 佐藤永子 松岡高志 田口義博 増田 等
5 視 察 結 果	行程、視察結果は別紙のとおり

## 視察内容

### 1. 湯沢町

#### 1) 道の駅「みつまた」

##### 【経緯】

昭和41年に清津川ダム建設の予備調査が始まり、賛否両論の議論が長年交されて来た。最終的には平成14年に中止と決まったが、地域にはこれまでの検討で疑心のみが残され、41年間に及ぶ苦しみを味わう結果となった。町では48項目の要望項目が受け入れられ、その中の2番目として国の制度の中で「道の駅」が作られ、観光の要として成功している。

##### 【施設】

- ① 東京大学堀先生からアドバイザーを頂き、駐車スペースより古民家風の建物と日本庭園風の池などの外観を重視したデザインとなっている。館内に足湯があり、また温泉が隣接しておりスキー客など国道17号線の通行客が立ち寄りたくなる施設となるよう工夫されている。
- ② 農産物や県内のお土産品を取り揃えたり、本格的な登山用品も取り扱って、特徴を出している。
- ③ 規模は決して大きくはないが、地域の特性を生かすとともに、「一時避難場所」として、地域防災施設も隣接させている。

##### 【管理者】

三俣未来町づくり協議会を指定管理者としている。4町内16人で構成。二年ごとの交代制。

#### 2) 湯沢学園

少子高齢化の中で、明日を担う子供たちの教育環境整備のために平成27年4月に、従来あった小学校5校、中学校1校を統合した「湯沢学園」を開校した。翌平成28年4月からは4つの保育園を同じ場所に統合して認定こども園とし、全国でも珍しい保・小・中一貫教育を施す教育体制がスタートした。総工費は51億円を投じている。人口8,163人（平成29年3月末現在）の町として、子育てにかなり大きな投資をしているといえる。

当町は、水力発電施設建設による固定資産税収入の増加などにより、

昭和 54 年から普通交付税の不交付団体となり、さらにリゾートマンションの建設が固定資産税収入に貢献して、平成 9 年には税収が過去最高の 65 億 6 千万円に達したこともあった。その後、年々減少して平成 28 年度では 37 億 9 千万円まで減少し、平成 24 年に交付団体となったが、財政力指数は平成 26～28 年度の 3 ヶ年平均で 0.991 となっており、財政力のある自治体である。

保育園、小学校の統合によって地域から学校がなくなるとの反対もあったが、子を持つ親たちは賛成であったとのこと。

小学校 1 年生から中学校 3 年生までの運動会にも地域から反対があったが、新卒の男女の先生の活躍で素晴らしい体育祭となった。きちんとした魂を入れられるかどうかは成功の秘訣とのことであり、教育設備の充実、特色ある教育で全国に誇れる学園を目指している。

### 3) まとめ

道の駅は百名山苗場山の麓にあり、また谷川連峰へのトレッキングの玄関口の位置にもあたり、立地条件が良い。この立地を生かした登山客のニーズに合わせた本格的な登山製品や、新潟県内の特産品も取り揃えている。館内には足湯温泉もあり、レストラン、カフェもある。温泉施設も隣接している。施設規模は、決して大きいとは言えず小規模な道の駅であると思えるが、施設のデザイン、取扱商品、陳列方法など十分参考になる。

保・小・中一貫教育の湯沢学園の開校は、人口減少の中ではあるが、生産年齢人口確保の観点から「若者が生活の場として選択するまち」を掲げ、首都圏から新幹線で通勤可能な交通環境を生かして、若者が首都圏で働きながら定住するライフスタイルを提案し、「働く」「住む」「子育て」を支援する「移住定住促進プロジェクト」を展開する施策の一つである。

施設が非常に豪奢であることは、財政力の点で同調できにくい面があるが、生産年齢人口の確保を目的として、交通の利便性を活かし、首都圏から定住するライフスタイルを提案した「移住促進プロジェクト」を展開することによって、「働く」「住む」「子育て」を支援していく施策は当町でも参考としたいところである。

## 2. 群馬県川場村 道の駅「川場田園プラザ」

### 1) 道の駅 川場田園プラザの概要

- ① 道の駅「川場田園プラザ」は群馬県北部に位置する武尊山（ほたかさん）の雄大な自然に囲まれた川場村の全国でも人気の観光拠点。2015年に観光庁長官表彰など数々の賞を受賞している。（別紙2-⑦各種受領歴参照）
- ② 川場産の野菜などを販売する「ファーマーズマーケット」、「ミート工房」、地元産牛乳を使った「飲むヨーグルト」、「地ビール」、地元産米粉を使用した「ベーカリー」など食品加工・販売所・地場産品を活かした各種レストランが園内に配置されている。地元森林資源を有効活用した木工体験、陶芸体験もでき、「家族で、1日楽しめる道の駅」となっている。
- ③ 「道の駅」周辺には川遊びが楽しめる「清流公園」、合宿のできる「スポーツエリア」、川場村の文化財や民俗資料を収録・展示している「川場村民俗資料館」、日帰り入浴も楽しめる「ホテル 田園プラザ」の温泉「弘法の湯」、川場の風景が望める吊り橋「ふれあい橋」、「リンゴ園」などがある。すべて近距離なので、徒歩で村内を散策できる。

### 2) 川場村との関係、成り立ち、取り組みについて

- ① 設置のねらい（詳細別紙2参照）は21世紀を展望し、次の点に重点を置き、成熟した村づくりを進めること。
  - ・ コミュニティー活動、縁組協定している世田谷区との交流活動の一層の活発化
  - ・ 農業を中心とした地場産業おこし
  - ・ 田園や自然環境に相応した地域住宅づくり
  - ・ 村の核づくり
- ② 基本構想の構築・目的  
川場村の基本路線は、「農業＋観光」の集大成と位置づけ、地場産品の振興及び新規開発を担うとともに、川場村の商業、情報・ふれあいの核である「タウンサイト（中心街区）」の形成の場として機能させることを事業目的としている。田園プラザ事業は、①で示した重点事業の中核的な事業で、タウンサイトの形成を目指している。  
持つべき機能は以下の通り。
  - ・ 若者を中心とした就業機会をふやし、定住、UIターンを推進
  - ・ 地場産品の開発、PRをすすめる、その流通を促進
  - ・ 村民相互、村民と村来者の交流・交歓、情報交換の場とする
  - ・ 村来者の飲食、ショッピングのニーズに答え、村内消費の拡大を図る
  - ・ シャトルバスの起終点など、村内交通のターミナル機能を持つ

④ 設置までの体制・経緯（縁組協定を含む）

川場村にとって長い年月をかけて進めてきた、活力ある村づくり事業を締めくくるものと位置づけ、行政と村民が一丸となって取り組むものとしている。

- ・昭和56年（1981年）人口約90万人の東京都世田谷区と第二ふるさとづくりを目指して「縁組協定」を締結
- ・平成元年-2年 川場村の多機能の田園プラザの開発と、世田谷区との事業協力の必要が提案される。⇒川場村過疎計画（平成2年）、川場村総合計画（平成3年）に位置づけられ、「田園プラザ推進委員会・幹事会」で構想策定
- ・平成5年（株）田園プラザ川場 発足
- ・平成8年 道の駅 登録（\*以下詳細は別紙2、3参照）

⑤ 投資額 総投資額 約31億円（土地6万m<sup>2</sup>は村から賃借）

- ・現在は（株）田園プラザ川場が会社として必要な投資を行っている。
- ・村が補助金を活用して追加投資をした防災施設、研修センターなどを隣接させて園施設と一体化させ、総合的に有効活用できるように機能の拡充を図っている。

3) 地域活動への貢献と成果

①若者が希望の持てる職場のない村に、130人の就労の場を確保。

②地場製品の消費促進。

- ・田園プラザ施設内入場者 平成28年度 180万人に達しており、現在も伸び続けている。結果として村内消費も拡大。
- ・村内農家等が消費に喚起されて新しい加工品の製造や、農産物の新品種に取り組む動きもみられ、今後の更なる発展が見込まれる
- ・交通のターミナル機能を有するようになった。
- ・6次化産業取り組みの成果としての新たな特産品と販売促進。
- ・農地遊休化を防止。

ファーマーズマーケットの平成27年の売り上げは5.5億円で、現在、農産物提供者は400名を超えて川場村農家の半数となる。

- ・第一戦を退いた高齢者、婦人の趣味と実益を兼ねた生きがい対策。
- ・村来者と村民の交流の場となっている。

③世田谷区と縁組協定以来、延べ170万人を超える区民が来村している。都市と農村の交流モデルとして高く評価されている。

#### 4) その他の情報

- ・経営は第3セクターの「株式会社 田園プラザ川場」
  - 資本金 9千万円、
  - 出資者 川場村 60%、 世田谷区 20%  
他民間企業、JAなど9団体 20%
  - スタート時の来場者数は年間10万人で当初5年程は赤字が続いた。
  - 行き止まりの地区であり閉鎖的な村で人を迎える感覚なかった
  - 民間企業から社長を招聘し、あらゆるもの見直した。村が口出ししないことが条件。
  - ごみを拾わない、またぐ状態だった社員一人一人と個人面談し、お客様第一主義を徹底。顧客満足度を上げる努力をし続けている。
  - 顧客のアンケート調査に基づき、3ヶ月ごとに「戦略会議」を実施。改善点を具体化し、実行に移している。
- (例) 川場産かぐらからし、パブリカや観賞用ミニカボチャの栽培、野菜のアイテム数増加を農家に実行してもらうことで、客に喜んで頂くことを実践している。
  - 農産物売り上げ増 1000万円以上 1人  
500万円以上 8~9人
  - 耕作放棄地なくなって、地域に貢献している
  - 店頭品が品薄になると農家に携帯でメール配信され、すぐ供給して空棚をなくしている
- ・平成28年の来場者 180万人
  - 70%は首都圏（東京、神奈川、埼玉、千葉）からの来場者
  - また、70%はリピーター（年3回 県が観光調査実施）
  - 交通量は日に1500台 最終目的地として作って進歩させている。
- ・一番人気は農産物特売所で、ファーマーズマーケットの売り上げは平成28年には6億に達している。JAは直接入れていない。
- ・ピザ、レストラン、ミート工場は社長が自らドイツで修行してきた。
- ・駐車場は緊急ヘリポートとしても活用。
- ・6代の村長が方針をブレさせないで、20年から30年の時間の中で強い信念と努力で築き上げてきている。
- ・観光協会は田園プラザ内にある。町から業務委託。主な業務はPR
- ・世田谷区が出資している会社が2店舗直営している。
- ・1981年世田谷区の第二ふるさとづくり時は52の市町村の応募があった。川場村は何もないが、美しい畑、田んぼ、山と水があるとPRして採用に至った。山村留学体験、林間学校などを実施。

5) 事業の今後の課題について

- ①体験型、村内散策を充実。②夜のイベント ③民泊 ④顧客満足度向上

6) まとめ

- ① 過疎と人口減少という課題克服のため、川場村にある地域独自の資源である農業と観光の持つ「人を惹きつける力」を融合させた環境ツーリズムの考えを実践させた良い事業例と考えられる。
- ② 川場村の道の駅は、本来目指したのではなく、存亡の危機を救うために「農業+観光」を推進していく中核となる事業をめざしたら、結果の一つとして道の駅の認定基準に合致し、認定を勧められたので申請して得たものであるとの説明があった。したがって、道の駅は結果であって、村として初めから目標としたものではないことが分かる。

川場村の基本路線は環境ツーリズムの考えに基づき「農業+観光」の集大成として、地場産品の振興及び新規開発を担うとともに、川場村の商業、情報・ふれあいの核である“タウンサイト（中心街区）”の形成の場として「田園プラザ」を機能させることである。

若者を中心とした就業機会をふやして定住、UIターンを推進させて人口減少を食い止めようとし、地場産品を開発、オンラインショッピングなどの流通を促進させて、農産物の6次産業化で新規事業の創出をも図り売上向上を目指している。村来者の飲食、ショッピングのニーズに答えて村内消費の拡大を図っている。また、防災拠点、研修センターの機能も隣接させてり、さらにはシャトルバスの起終点など、村内交通のターミナル機能をも持たせている。

つまり、農業+観光によって村内経済のパイを拡大させ、雇用を創出して人口減少に歯止めをかけ、またアクティブシニアの活用でやりがいと健康寿命の増進、第3セクターからの利益のリターンと税収増も狙った総合的な事業である。あわせて、交通の利便性や防災拠点の向上も同時に図ろうとする事業でもある。農業+観光により村を活性化させる総合事業である。

- ③ 人口約3500人の村であっても、明確な構想と一貫したリーダーシップの下で、行政と村民の協働があれば地方は活性化出来得ることを学んだ。
- ④ 今後、道の駅とバスターミナルの一体整備を目指している自然豊かな松伏町にとっても、大いに参考とするべき成功事例である。

以上

## 平成 29 年度自民クラブ行政視察行程表

1. 期日 平成 29 年 11 月 9 日 (木)・11 月 10 日 (金)





2. 視察先 ①新潟県南魚沼郡湯沢町  
②道の駅「田園プラザかわば」

### 3. 行程 & 視察スケジュール

11/9 松伏町⇒幸手 IC⇒(圏央道)⇒鶴ヶ島 JCT⇒(関越道)⇒湯沢 IC⇒湯沢町役場(3時間20分)

11/10 湯沢町⇒湯沢 IC⇒(関越道)⇒沼田 IC⇒道の駅「田園プラザかわば(川場村)」(50分)

田園プラザかわば⇒(関越道)⇒鶴ヶ島 JCT⇒(圏央道)⇒幸手 IC⇒松伏町(2時間40分)

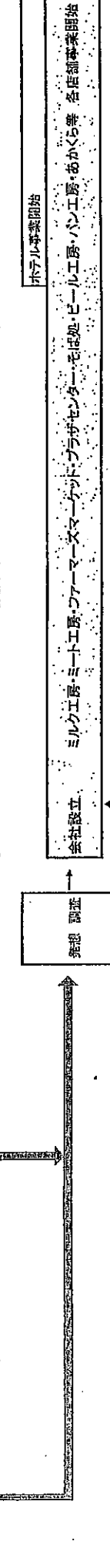
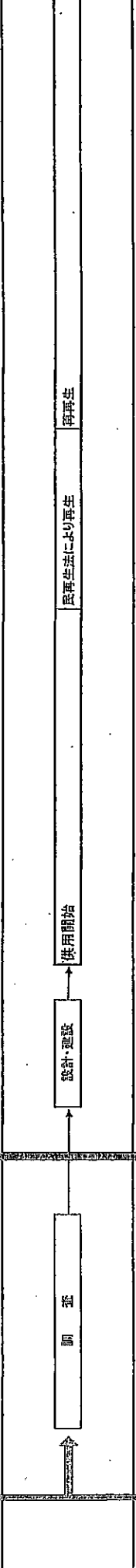
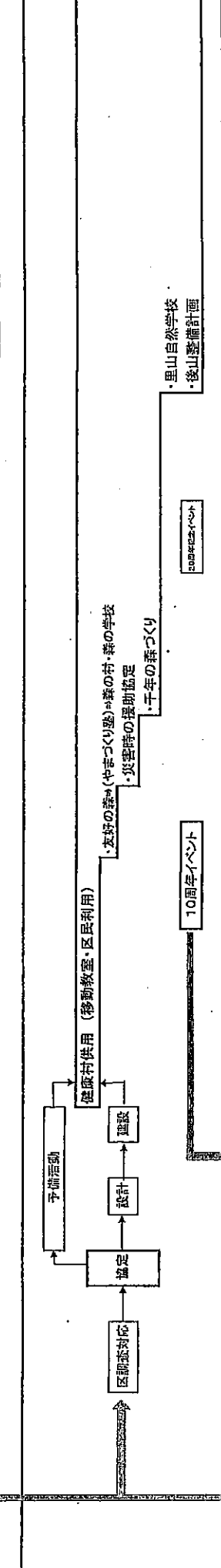
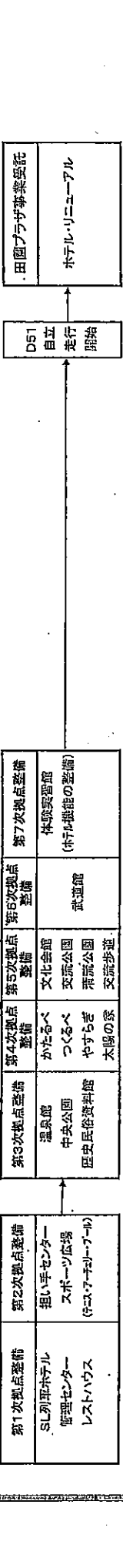
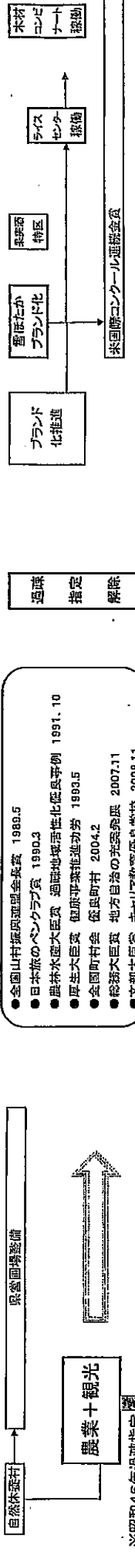
1 日目 (11/9) 木曜日	8:50 (集合)	せんげん台駅東口	トヨタレンタカーせんげん台駅前店 松伏町からバス(田口)と増田車で4人(高橋宅8:00⇒佐藤宅8:15 松岡宅8:30) 車は店に預ける。
	9:00 (出発)		
	9:00 ↓	※レンタカー移動 	SAにて途中2ヶ所休憩します。
	12:30	湯沢町着	
	12:40 ~13:40	昼食休憩	越後湯沢駅周辺の店にて昼食とします。
	14:00 16:00	湯沢町役場	視察研修① ・湯沢学園の概要 ・道の駅「みつまた」の概要
16:15 ↓ 16:30	湯沢町役場発 ※レンタカー移動  宿泊先到着	宿泊場所 「雪国の宿 高半(たかはん)」 ☎ 025-784-3333 住所 湯沢町湯沢923	
2 日目 (11/10) 金曜日	9:00 ↓ 10:00	宿泊先出発 ※レンタカー移動  道の駅着	宿にて朝食
	10:30	道の駅 「田園プラザかわば」	視察研修② 1. 道の駅「田園プラザかわば」の概要 2. 川場村との関係の成り立ち、取り組み 3. 地域活動貢献や縁組協定について 4. 事業内容や各店舗の説明
	12:00		
	12:10 ~13:10	昼食休憩	道の駅にて昼食
	13:20 ↓ 16:30 (解散)	道の駅出発 ※レンタカー移動  せんげん台駅東口 松伏町着	SAにて途中2ヶ所休憩します。 レンタカー返却手続き後解散



法人名	株式会社 田園プラザ川場
設立	平成5年4月1日
資本金	90百万 (うち主な出資団体名 川場村 出資割合 60% 他9団体)
事業目的	川場村の村づくりの基本路線である「農業+観光」の集大成の事業と位置づけ、川場村の地場産品の振興及び新規開発を担うとともに、川場村の商業・情報・ふれあいの核である「タウンサイト」の形成の場として機能させる。
設置のねらい	<p>川場村では21世紀を展望しながら、コミュニティ活動や世田谷区との交流活動の一層の活性化、農業を中心とした地場産業おこし、田園や自然環境に相応した地域住宅づくり、村の核づくりなどに重点をおきながら成熟した村づくりを進めている。</p> <p>田園プラザ事業は、川場村のこうした一連の重点事業の中核的な事業で、次のような機能を持つ川場村の商業、情報、ふれあいの核であるタウンサイト（中心街区）の形成を目指している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 若者を中心とした就業機会をふやし、定住、Uターンなどを推進する。</li> <li>2) 地場産品の開発、PRを進め、その流通を促進する。</li> <li>3) 村民相互、並びに村民と村来者の交流・交歓や情報交換の場とする。</li> <li>4) 村来者の飲食や買い回り品リニーズに応えるとともに、村内消費の拡大をはかる。</li> <li>5) シャトルバスなどの起終点など、村内の交通ターミナルとして機能する。</li> </ol> <p>また、川場村にとってこの事業は、長い歳月をかけて進めてきた活力ある村づくり事業を締めくくると位置づけ、行政と住民が丸となって取り組むものである。</p>
事業経過	<p>平成元年～2年の「世田谷区民健康村第2期の運営と整備に関する指針」の検討段階で、川場村の多機能としての田園プラザの開発と、世田谷区との事業協力の必要性が提案された。これを受け川場村過疎計画（2年）、川場村総合計画（3年）の中に位置づけられ、田園プラザ推進委員会・幹事会で構想が策定された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●平成5年 株式会社田園プラザ川場発足</li> <li>●平成6年 ミルク工房営業運転開始</li> <li>●平成7年 ミート工房営業運転開始、ファーマーズマーケット営業開始、公衆便所完成（第1）</li> <li>●平成8年 プラザセンター、研修施設、ふれあい橋（道の駅の登録）</li> <li>●平成9年 そば処営業開始</li> <li>●平成10年 ビール工房、パン工房、レストラン、物産館営業開始（田園プラザグランドオープン）</li> <li>●平成14年 ブルーベリー館、ブルーベリーの丘、開設</li> <li>●平成20年 食事処あかくら</li> <li>●平成21年 宿泊部門ホテルSL業務開始</li> <li>●平成23年 第3トイレ完成</li> <li>●平成24年 ピザ工房、森のウエルディング営業開始、駐車場拡張</li> <li>●平成25年 ビジターセンター設置 村の花工房営業開始</li> <li>●平成26年 クレープ&amp;カフェ営業開始</li> <li>●平成27年 あかくら2号店営業開始 カリーブルスト販売開始</li> <li>●平成28年 プレミアムショップ・雪彩庵営業開始</li> </ul>
活力ある地域社会の形成に貢献	<p>平成27年度にて設立22周年を迎え、田園プラザでは着実にその効果・成果を以下のように生み出している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①就業機会の拡充 村内には若者が希望を持てる職場がほとんどなく、その中において130名程度の就労の場を確保することが出来た</li> <li>②地場産品のPRや村内消費が促進 田園プラザ施設内入場者（平成27年度、170万人）が多く訪れ、消費の拡大につながっている。また、これらに喚起され村内の農家等においては、新しい加工品の製造や、農産物の新品種に取り組み動きも見られ今後もさらに発展が見込められる。</li> <li>③村の交通のターミナル機能を有するようになった。 村の入り口にあり、道の駅にも指定（平成8年）され多くの観光客や村来者が利用するようになった。公衆便所、電話、観光案内、休憩、買い物、食事、積雪時のチェーン脱着等色々な行われていて村来者の便宜を図っている。</li> <li>④新たな特産品の開発と販売促進が実現された。 田園プラザでは次の商品が開発され新たな村の特産品として販売され、農産物の消費の拡大や販売促進が図られている。（6次化産業取り組みの成果）</li> <li>⑤農地の遊休化の防止が図られている。 ファーマーズマーケットでは平成27年度売上が5.5億円を計上した。現在、農産物提供者は400名を越え川場村の農家の半数となり農地の遊休化防止に大きな役割を果たしている。また、会員の多くは第一線を退いた高齢者や婦人で趣味と実益を兼ねた生きがい対策ともなっている。</li> <li>⑥村来者と村民の交流場所の提供 施設内では各種イベントが開催され、また、飲食店機能、インフォメーション機能も有することに より村来者と村民の交流の場所としても利用され、村民の交歓場所としても有効に活用されている。</li> <li>⑦各種受賞歴（代表例） <ul style="list-style-type: none"> <li>●平関好きな道の駅5年連像第1位（2004～2008）</li> <li>●日本経済新聞社発表「道の駅ランキング」東日本第1位</li> <li>●読売新聞主催「関東道の駅アワード」プレミアム30選定・みんなのNO.1選定（2014）</li> <li>●国土交通省「全国道の駅」全国モデル選定（2014）</li> <li>●平第7回観光長官書表彰（2015）</li> <li>●トリップアドバイザーエクセレンス賞受賞（2015）、道の駅全国口コミランキング第5位（2016）</li> <li>●群馬県優良企業、商業・サービス部門大賞（2016）</li> </ul> </li> </ol> <p>以上の成果を生み出すことができ、現在でも売上金額、入場者数とも右肩上がりの成長をとげており、川場村の「農業+観光」の基本理念を実現していくための重要な位置づけとなり、地域社会の発展及び地方創生に貢献している。</p>

# 川場村のむらづくりの系譜

1950年代	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16																									
昭和40年代	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16



- 関好ぎな道の駅5年連続第1位(2004~2008)
- 日本経済新聞社発表「道の駅ランキング」第1位(2014)
- 読売新聞主催「関東道の駅アワード」プレミアム30選定・みんなのNO.1選定(2014)
- 国土交通省「全国道の駅」全国モデル選定(2015)
- 平第7回観光長官賞表彰(2015)
- トリップアドバイザー「エグゼレンス賞」(2015)、道の駅全国口コミランキング第5位(2016)
- 群馬県産産企業、商業・サービス部門大賞(2016)

06 11/16/20